

平成 1 7 年 9 月

試験研究業務月報



放牧予定地

放牧ゾーニングによる獣害対策

中山間地域では、高齢化や労働力不足などにより耕作放棄地や荒廃（竹）林が拡大しており、これが野生獣による農作物被害の一因になっています。

このため、平成 1 8 年度から山（竹林を含む）と農地の間にベルト状に緩衝地帯を設け家畜を放牧することで、野生獣による農林産物被害を防止する農業・畜産業・林業部門の共同研究を実施します。当所は獣害防止効果について検討することとしています。

今年度は予備調査として、放牧前のイノシシやニホンジカの行動域について痕跡調査し、今後、放牧後の行動域と比較することによって放牧ゾーニングの効果を検討します。

農業総合研究所